

彼女は男の子を産む。
その子をイエスと名づ
けなさい。

日本カトリック司教協議会の池長潤会長、岡田武夫副会長、高見三明会司教委員会委員長、谷大二同委員、平賀徹夫同委員の5人で記者会見を行い、一般に公表した。取材に駆け付けたのは時事通信社とカトリック新聞社のみで、他に仙台教区広報委員会から数人の出席者があつた。主

期間：2011年12月1日～
2012年1月15日

主催：カトリック長崎大司教区
長崎教区評議会

大勢の参列者が集まつて、説教師を務めた、三楽教会主任司祭の竹誠師＝写真＝は、キリスト教迫害の歴史をたどながら、牢屋の殉教への思いを新たにするう促した。また、カリックの信者であるとうことと、カトリック信仰を生きるというこについて問い合わせなが

にある枯松神社で「枯松神社祭」(同神社祭実行委員会主催)が行われ、写真は、感謝と慰靈のミサと、旧キリスト教禁教、弾圧の時代に信仰指導を行つた外国人宣教師「サン・ジワニさま」

すが、「長崎教区モバル（携帯サイト）」の運用を10月から試験的に開始し、またこのほど「長崎教区ツイッター」も始めました。

カトリック長崎大司教区モバイル
<http://www.nagasaki.cat>

カトリック長崎大司教区ツイッ
<http://twitter.com/ngsk>

カトリック長崎大司教区ホームページ
<http://www.nagasaki.ca>

はどこ聖体に養われて—
つの小教区共同体となる
▲その小教区共同体は、
その地域における「地の
塩、世の光」福音のパン
種である。そこで、目指
すべき教会像は「地域に
貢献する教会」。地域の
人に、ここに教会があつ
てよかつた、と思つても
らえる教会になりたい。

報委員会
34
ンター内
(843) 3417
2699
ジ
holic.jp
13
(821) 2148

よきおとずれ

CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

12月・教皇さまの 意向のために祈りましょう

- ①一般の意向：相互の理解と尊敬
 - ②宣教の意向：福音の使者である子どもと若者
 - ③日本教会の意向：日本の観想修道会への援助

日韓
同教
交流会

大地震と津波の被災地・仙台で開催

第17回日韓司教交流会が11月8日～10日、仙台市内のホテルで開催された。韓国からは大司教、司教、補佐司教合わせて20人、日本からは17人全員、両国の司教協議会スタッフ、通訳など、総勢49人が参加。今回は大地震と津波の被災地で、それに関連した問題を学び合った。

初日は被災と復興支援の状況の報告(神田裕神父)と「四大河川事業と

関連した韓国の環境問題題（姜禹一司教）についての話があつた。また夕食に新教皇大使ジョゼフ・チエノットウ大司教も合流した。

2日目の午前中は「原子力安全の現状を考える」福島第一原発事故（後藤政志氏）と「生能神学」（イ・ジエドン神父）と題した講演を聴き、午後は松島経由で石巻を観察し、日和山の上で町を眼下にして全員で祈りを

会食をした。3日目は、4つの分科会を行い、全体会集会で発表した。韓国で開催予定の来年の交流会においても、今回のテーマに関連した問題を取り上げたいという意見が大勢を占めた。

交流会を終えて、高見三明大司教は「日韓の司教たちがますます緊密に連携して共通の問題に取り組むことができるることは、大変歓迎すべきこと」と感想を語った。

11月13日（日）黒瀬の辻殉教碑公園で、山田 聰師（平戸地区長）と7人の司祭らの共同司式のもとミサがささげられ、約220人が参加した。テーマは「見なさい、ここにわたしの家族がいる！」

黒瀬の辻殉教碑公園

橋本 熱師（上神崎教会）は説教のス）の辻（十字架）に倣い、神さまとしるし」と社会とのつながり「横のしこたる十字架にするよう諭した。また、前地区長の中島健二神父の強い十をした。ミサでは東北の震災で苦しむに祈り、最後に、七五三を迎えた子供の窄霧教者たちへの最

を守つた先祖をしのんだ
ミサを司式した黒崎教
会主任司祭の大山繁師
は説教の中で、「わたし
たち日本人は先祖を敬い
家の系譜を大切にします
その中に洗礼名を持つ先

イタリア・アシジでの
世界平和祈祷集会
1986年の開催から25年
す」と語った。

「奉納する時の気持ちは
『感謝』です。サン・バ
ワンさまに感謝し、オニ
シヨを伝えてくれた先姐
に感謝する。それが一要
変わらぬ大切なことと

ほしかみ

式の終わりに受堅者代表の中学生があいさつし、
「わたしたちは堅信の秘跡を受け、聖靈の7つの賜物をいただき
ましたが、そのことで満足せず、これからも教会の教えを学び続けたい」と決意を述べ、大司教は、これから長崎教区を担つていく若者に育つていてほしいと答えた。



上五島11小教区合同の堅信式が11月13日、青方教会で行われ、59人の中学生が高見三明大司教から堅信の秘跡を授かった。



深堀 繁美さん



写真提供=長崎原爆資料館

スイス・ジュネーブの国連欧洲本部で11月11日から常設原爆展が始まった。一般紙によると、国連が無償で半永久的に場所を提供するという。原爆展では浦上



大浦天主堂で召命祈願ミサ

19時、長崎市南山手町にある大浦天主堂で高見三明大司教と15人の司祭らの共同司式のもと「第5回召命祈願ミサ」が行われ、司祭を志す神学生たちたる召命の恵みを願つて多くの信者が共に祈りをささげた。

10月21日(金)
19時、長崎市南山手町にある大浦天主堂で高見三明大司教と15人の司祭らの共同司式のもと「第5回召命祈



願ミサ」が行われ、司祭を志す神学生たちたる召命の恵みを願つて多くの信者が共に祈りをささげた。

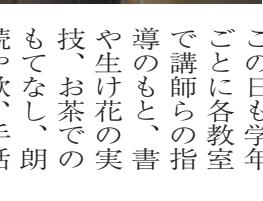
10月21日(金)
19時、長崎市南山手町にある大浦天主堂で高見三明大司教と15人の司祭らの共同司式のもと「第5回召命祈願ミサ」が行われ、司祭を志す神学生たちたる召命の恵みを願つて多くの信者が共に祈りをささげた。

小神学院教養講座参観日

11月6日(土) 19時
長崎市橋口町にある長崎カトリック神学院(眞崎健吾院長)では毎月1回、神学生のために「教養講座」が実施されている。保護者らが講座を参観した。



この日も学年ごとに各教室で講師らの指導のもと、書や生け花の実技、お茶での読み歌、手話読み歌、手話など、保護者らがそれ日々の学びを披露した。ミサ後、神学生の1人(長崎コレジオ生)は、「召命が増えるように」とのこと、その時神に祈つたことについて語つた。そして、松永正勝師、中島健二師が今年相次いで亡くなつたことに触れ、「非常に悲しい出来事でしたが、若くして亡くなつて残念だ」とは思いたくあります。



習つたことを生かしてできた。楽しかった」と笑顔で語つた。

1865年プチジャン神父(当時)によって創立された同神学院の神学生は、現在17人。普段は南山中・高等学校に通いながら神学生としての日課を守り、過ごしている。

1784年に若い儒学者のグループから始まり、1886年まで続いた弾圧を経て、第2次大戦後の軍事政権の下、民主化運動や人権運動にかかりながら発展し、現在信徒数500万人に達した韓国教会を紹介した。

しかし同時に、信徒の60~70パーセントが教会離れていく現実があり、これを乗り越えるために小共同体づくりに希望を見いだそうとしている」と語った。

2日目は、濟州島の歴史と現代の課題について語つた。

特に、戦後の軍事政権下で起きた3・4事件といわれれる住民弾圧事件と、現在進行している濟州島に海軍基地を建設する計画に、

聴衆は聴き入った。姜司教は、教区の方針としてこの海軍

基地建設計画に反対している。姜司教は、

小松神父 長谷川シスター

その間、高3は現在在籍して手話(高2)、茶道(中3)話し方(高1)手話を(高2)、(中3)話す。現在在籍していないがクリスチヤンの歴史

と決意を述べ、大司教は、これから長崎教区を担つていく若者に育つていてほしいと答えた。

浦上教会の被爆天使像 国連欧洲本部の常設原爆展へ

教会の被爆天使像や旧教会の壁の一部とれんが、変形したガラス瓶、別の皿の底が固着した小皿

スイス・ジュネーブの国連欧洲本部で11月11日から常設原爆展が始まった。一般紙によると、国連が無償で半永久的に場所を提供するという。原爆展では浦上

スイス・パウロ2世がおしゃつたように、「戦争は人間のしわざ」。平和を知るか分からぬが、話さなければならぬと思つた。

ヨハネ・パウロ2世がお

しゃつたよう、「戦争は人

間のしわざ」。平和を宣

する1人の声は小さいけ

ど集まれば大きくなる。一

人一人が声を上げてほし

い」と語つた。

高校生たちは、被爆者で関心を持つて話を聞いている様子だった。戦争を知りたい人たちにどこまで伝わるか分からぬが、話さなければならぬと思つた。

高校生たちは、被爆者

で関心を持つて話を聞いている様子だった。戦争を知りたい人たちにどこまで伝わるか分からぬが、話さなければならぬと思つた。

57人。
現在、世帯数29戸、信徒数
の嵐が吹きすぎるので、
長崎市への西彼外海地方か
ら移住したキリスト教の
子孫で、あつい信仰を持
つ漁業者の信徒が多い。
大司教館に京都から
長崎までを徒歩巡礼した
信徒・修道女らが集まり、高見三
明大司教にその体
験を分かち合つた。

この集まりは、
日本二十六聖人が
歩いた京都→長崎
間の1000kmを
徒歩で巡礼する集い、「長
崎への道」(通称・ナガ
ミチ)事務局長の本田周
司さん(84、大阪・吹田
教会信徒)が、高見大司
教からの「体験者の声を
聞きたい」との依頼に応
えたもの。当日は県内外
から会員ら25人余が参集
した。



仲知小教区 米山教会

特徴的な形と
白い外観

1903

江袋教会 火災による全焼から復元 2010年献堂

が青空に映える。
この教会からは、教会

吉

建築の第一人者といわれた鉄川与助氏初のれんが
造り、野首天主堂がある
野崎島を見ることができる
(米山教会・又居五十
年(明治36年に建立
された最初の聖堂は、
山の頂上付近であつた
ため、狭い山道を歩い
て行っていた。その後、
老朽化が激しくなり、交
通の便利な海岸近くに居
ため、焼け残つた一
部の建材をそのまま利用
して元の位置に復元し、
2010年(平成22)5



赤波江教会

民家風の聖堂から
赤い屋根の教会に

貴重な資料として、マ
ルマン師が1877年(明治10)
7月、初めて赤波江教会を巡回した時の
洗礼簿がある。

現在、赤波江集落の中央部に位置している所に
赤波江教会があるが、この教会を目印に、北側、南
側、中央部の3地区に分
けられる。この3地区は、
急傾斜で人を寄せ付けない險しい山並みの中でも、



現在の世帯数は8
戸、信徒数17人。わ
たし個人的には、仲
間の赤い屋根の教
会に生まれ変わつ
たのが1971年(昭和46)
のこと。

現在の世帯数は8
戸、信徒数17人。わ
たし個人的には、仲
間の赤い屋根の教
会に生まれ変わつ
たのが1971年(昭和46)
のこと。

アンナ 新里トメ修道女 (お告げのマリア修道会)



院で帰天。89歳。
1922年五島市三井
樂町にて生まれ、35年三
井樂修道院に入院。当初
教え方としての教育を受け、地域の教え方として
の奉仕と保育事業に携わ
る。手先も器用で、戦前・
戦後、地域の方々の注文を
受けた裁縫にもいそし
われた。

現在の世帯数は8
戸、信徒数17人。わ
たし個人的には、仲
間の赤い屋根の教
会に生まれ変わつ
たのが1971年(昭和46)
のこと。

現在の世帯数は8
戸、信徒数17人。わ
たし個人的には、仲
間の赤い屋根の教
会に生まれ変わつ
たのが1971年(昭和46)
のこと。

院で帰天。89歳。
1922年五島市三井
樂町にて生まれ、35年三
井樂修道院に入院。当初
教え方としての教育を受け、地域の教え方として
の奉仕と保育事業に携わ
る。手先も器用で、戦前・
戦後、地域の方々の注文を
受けた裁縫にもいそし
われた。

生誓願宣立。晩年はお祈
りに専念する傍ら、修道
院周囲の花畠の草取りに
も励む。今年9月、大腿
骨骨折で入院、姉妹たち
の見守りの中帰天した。
葬儀ミサ、告別式は11
月1日、三井樂教会で行



巡回教会めぐり

⑩

1903

江袋教会

火災による全焼から復元

2010年献堂

10

10月23日、長崎
大司教館に京都から
長崎までを徒步
巡礼した体験を持
つ信徒・修道女ら
が集まり、高見三
明大司教にその体
験を分かち合つた。
この集まりは、
日本二十六聖人が
歩いた京都→長崎
間の1000kmを
徒歩で巡礼する集い、「長
崎への道」(通称・ナガ
ミチ)事務局長の本田周
司さん(84、大阪・吹田
教会信徒)が、高見大司
教からの「体験者の声を
聞きたい」との依頼に応
えたもの。当日は県内外
から会員ら25人余が参集
した。

初めのあいさつの中で
大司教は、「来年2012
年、26聖人列聖150年
を迎えるに当たって教区
では記念行事などを検討
している。殉教者が實際
に歩いた道の巡礼道は世
界でも珍しいと思う。檢
討段階だが、地図製作や
関連の整備を準備する上

返り、現在のナガミチの
活動につながった歩みを
熱く語った。そしてその
後一人一人から、巡礼を決
心した経緯や巡礼中の工
ピソード、気付き、まだナ
ガミチ巡礼はしていない
けれど関心があるなど

10月23、24の両日、韓国
からカトリック司祭11人
が鹿児島経由で五島列島
に巡礼に訪れた。この巡礼は、韓国にお
ける半年間の司祭研修の一環で行われたもの。フ

10月23日、僕町教会を皮
切りに、楠原牢屋跡、日本
最古のルルドのある井持
浦教会などを巡った。巡
礼の案内には地元の信者
が協力。司祭たちからは、
堂崎教会の資料館のマリ
ア観音、サン・ジワンさ

みことば友の会(西村良
男会長)佐世保地区集会
が行われ、友の会会員と
役員ら25人が参加した。
「みことば友の会」は、
それまでの「要理教師友
の会」を引き継ぎ、信仰

テーマは「カトリック
社会教説の視点から
見た環境保護」。同管区
ターホールで開催され、
修道女ら約150人が参
加した。

テマは「カトリック
社会教説の視点から
見た環境保護」。同管区
長会では、U.I.S.G.(女
性、イエズス会)を講師
に迎えてカトリックセン
ル会長(上智大学神
学部教授の瀬
本正之師(写
真)が上智大学神
学部教授の瀬
本正之師(写
真)が主
催する研修会

10月23日、佐世保地区集会
が行われた。この教会で
みことば友の会(西村良
男会長)佐世保地区集会
が行われ、友の会会員と
役員ら25人が参加した。
「みことば友の会」は、
それまでの「要理教師友
の会」を引き継ぎ、信仰

テーマは「カトリック
社会教説の視点から
見た環境保護」。同管区
長会では、U.I.S.G.(女
性、イエズス会)を講師
に迎えてカトリックセン
ル会長(上智大学神
学部教授の瀬
本正之師(写
真)が主
催する研修会



その後は長崎の大浦天
主堂や雲仙殉教地他の史
跡、さらには平戸の教会
を訪問し、10月28日に帰
国途に就いた。

さまざまな話題が飛び出
し、巡礼にかかわること
で得た喜びを味わい、深
め合う時間を過ごした。

日本二十六聖人列聖から
150年。長崎教区では
無声映画上映や殉教記
念行事を検討している。
(写真、ナガミチ巡礼
と、話に聴き入る高見大
司教と体験者ら)

さまざまな話題が飛び出
し、巡礼にかかわること
で得た喜びを味わい、深
め合う時間を過ごした。

日本女子修道会
総長管区長会研修会

10月23日、日本女子修道
会(米田ミチル会長)が主
催する研修会

10月23日、日本女子修道
会(米田ミチル会長)が主
催する研

「彼らは使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心たるうとする「彼ら」がいることなど、祈ることに熱心であること、「彼ら2章42節」でもなくクリスマスを迎える。日頃は埋まることのない聖堂も、この日ばかりはにぎわうのでしょうか。



800キロの奇跡 わたしのサンテ

イアゴ巡礼完



The image shows the front cover of a book. The title 'みことばにふれて' is written in large, stylized red Japanese characters. To the right of the title is a small, open book icon containing the number '80'. Below the title, the author's name '岩崎康彦神父' is written in red, followed by '(今村教会)' in smaller red parentheses.



人間の救いを望まれた神さまが、世に「教会」を残されました。教会はその思いを受け、使徒の教えを守り、相互の交わりを大切にし、パンを裂くこと、祈ることに熱心であります。



「沖に見ゆるはバーバーの船よ、丸にやの字の帆が見える。」

派遣司祭は思います。隠れざるを得なかつた時代が何百年と続きましたが、潜伏キリスト教徒たちが司祭を待ち続けたことを。

「リシタンたちは、付焼刀（やきばは）の代役を待ち続けたわけではありません。召命を育てないわけにはいきません。まだ見ぬ子供たちの時代にも『主の教会』を残すために、一派遣司祭のクリスマスの希望です。」

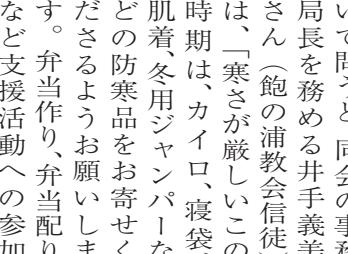


「みことばにふれて」のカットを募集します

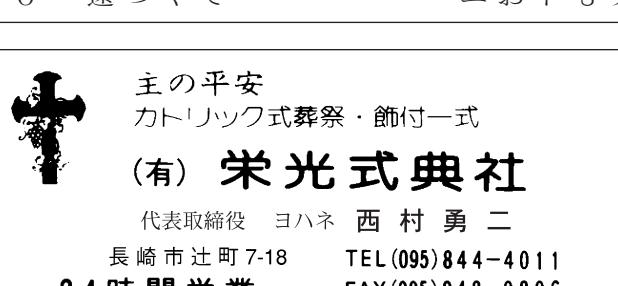
本紙掲載の「みことばにふれて」のカット（挿し絵）を募集します。「みことば」や「祈り」からイメージしたものを絵画で表現していただき、ふるってご応募ください。応募いただいた中からいくつかの品を広報委員会が選考し、本紙2012年2月号以降の「みことばにふれて」シリーズに掲載します。

【象 小・中学生 **募集期間** 2011年11月10日(木)～12月20日(火)必着
規格 はがき、またはA4サイズまでの大きさの用紙。描画材料は自由。
発表 本紙への掲載をもってかえさせていただきます。
他 住所・氏名・学年・所属教会を記入。
応募作品は1人1点までとし、原則返却しません。

出、お問い合わせ先 〒852-8113 長崎市上野町10-34 カトリックセンター内
カトリック長崎大司教区広報委員会 電話095(843) 3869



★クリスマスのおとずれ 絵＝杉田幸子 文＝シ・ボスコ社
わくわく、うれしい
リスマス。悲しいとき
笑顔になれるプレゼント
は？ 神さまからの
くりもの、かわいいイ
スさまに、みんな喜び
いっぱい——心温まる
さしい絵と言葉でつ
る、クリスマスが待ち
しくなる絵本。
シ・ボスコ社、1



碎石・栗石・港湾用捨石一式生産販売

